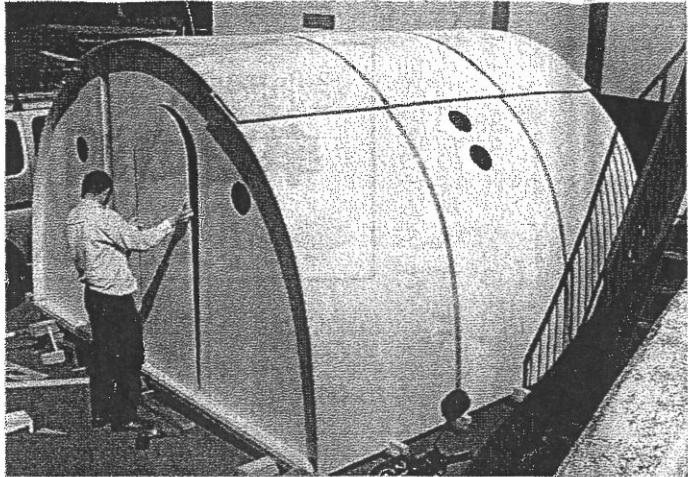


「復興ドーム」生産開始

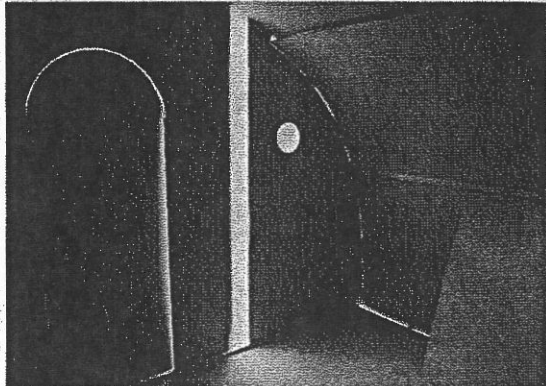
被災地向け居住者がDIY施工

ロシア材専門商社のテツヤ・ジャパン（兵庫県神戸市、木村哲哉社長）は8日、東日本大地震の被災者向け仮設シェルター「復興ドーム」の生産を開始した。居住者自身で簡単に施工できることが大きな特徴。耐水加工が不要で強度のある「ロシア白樺耐水合板」を使用した木質のキット・テントを大量供給し、被災地が必要が高まっている「リラククスできるプライベートな空間の構築」に対応する。



木質の仮設シェルター「復興ドーム」

「復興ドーム」プロジェクトには設計事務所のほか、商社や施工



乳白色のロシア白樺耐水合板が「癒し」を醸し出す

会社、システム開発会社、マーケティング・コンサルティング、サンサルタント、広告代理店など11社の異業種企業が参画した。その多くは関西の企業で、1995年の阪神大震災において緊急復旧支援を経験。今回、そのノウハウを生かし、被災者の精神面をケアするプライベート・ルームの供給に乗り出す。

ドームのサイズは縦3・6×横3・6×高さ2・25メートル。使用した合板（ロシア白樺耐水合板）は4×8の12枚と6・5枚を計22枚（0・5立方メートル）。木材（北洋材アカ松）は90センチの土台と45センチの根太、30センチの木枠を計31本（0・2立方メートル）。乳白色のロシア白樺耐水合板が醸し出す癒しの室内空間に、大人2人と子ども2人が川の字になって寝れる。

プロジェクトの参画企業は次の通り。

▽基本設計「テクノプロト」▽製作「サカエ工芸（関東）、石野木工所（関西）▽ソーラーシステム「田口製作所」▽COMPシステム「東日本システム」▽タッチパネル・マーケティング「タッチシヨッピング」▽リユース開発「KIILTO」▽カタログ製作「エイヴィスシステム」▽販売「グットラック」▽運送「センコー」▽プロデュース「テツヤ・ジャパン」

材（北洋材アカ松）は90センチの土台と45センチの根太、30センチの木枠を計31本（0・2立方メートル）。乳白色のロシア白樺耐水合板が醸し出す癒しの室内空間に、大人2人と子ども2人が川の字になって寝れる。

プロジェクトの参画企業は次の通り。

▽基本設計「テクノプロト」▽製作「サカエ工芸（関東）、石野木工所（関西）▽ソーラーシステム「田口製作所」▽COMPシステム「東日本システム」▽タッチパネル・マーケティング「タッチシヨッピング」▽リユース開発「KIILTO」▽カタログ製作「エイヴィスシステム」▽販売「グットラック」▽運送「センコー」▽プロデュース「テツヤ・ジャパン」

問い合わせ先「テツヤ・ジャパン」復興ドームプロジェクト事務局（電話078-647-7721）